

IR資料

-2024年3月期 第1四半期-

2023年08月09日
ニプロ株式会社



目次

事業の概況	2
2023 年度 1Q 業績	3
販売費および一般管理費 主要科目	4
販売費および一般管理費 補足	5
販売費および一般管理費 研究開発費	6
為替影響を除いた損益比較	7
事業セグメント別 売上高・営業利益	8
セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）	9
セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）	10
セグメント業績 - ②医薬関連事業	11
セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業	12
セグメント別・製品群別の売上高	13
セグメント別・地域別の売上高	14
製品分類表	15
製商品別売上高	16、17
為替感応度	18
設備投資額・減価償却費	19

事業の概況

製造・購買・物流

2023年度のダイアライザライン(インド、秋田大館)の新設は下記。

秋田大館第5工場にて火災発生時の2ラインは今後入れ替え予定。第5工場の他の2ラインについては2023年4月6日より生産再開。

国内販売において一部代替品による供給を実施したが、現状は正常化している。

2023											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	インド ダイアライザ 4ライン目 新規稼働	秋田大館 火災発生 ダイアライザ2ライン 一部損傷							秋田大館 ダイアライザ 8ライン目 新規稼働予定		

販売

- 透析用医療機器 : ダイアライザは日本・中国で軟調に推移するも、その他地域で堅調に推移。透析装置は全体的に低調。
- 循環器用医療機器 : 国内独占市場であった薬剤溶出バルーンが、他社参入による影響により販売減。
- 外科用医療機器 : HeartMate 3や人工肺関連製品が引き続き堅調に推移。
- 自社医薬品 : 経口剤はネキシウムAG販売が好調、注射剤は不採算再算定品目の薬価UPと販売数量増加で大きく伸長。
- 受託医薬品 : 日本は原材料費やエネルギー費の高騰に伴う価格転嫁が進むも、顧客の在庫調整による受注減少により、前年対比で減少。海外はJMIファーマの販売が堅調に推移。
- ファーマパッケージング : 生地管とバイアルはインドでコロナ需要が減少したが、欧米で原材料費の高騰に伴う価格転嫁が進み、前年対比で増加。アンプルは欧州における競合他社の販売製品見直しの影響により販売増。

臨床試験

臨床試験の実施や承認申請への大きな影響はなし

ニプロファーマに対する業務改善命令について（6月26日）

2023年2月24日に秋田県からニプロファーマに出された業務改善命令に対して、改善計画と改善実施報告書を提出し、

2023年6月22日付で「適合」との判断を頂きました。

今後も全従業員で改善計画を含む品質に関する取り組みを進め、患者さまに安心して使用いただける医薬品を提供し続けられるよう
全社で努めてまいります。なお、本件による2024年3月期通期の連結業績に与える影響は軽微です。

2023年度1Q 業績

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	増減額 (増減率)	上期予想 (進捗率)	2023年度 通期予想
売上高	1,278.9	1,405.9	+127.0 +9.9%	2,943.9 47.8%	5,992.4
売上原価	886.8	975.3	+88.4 +10.0%	2,050.5 47.6%	4,194.6
売上総利益 (※1)	392.0 30.7%	430.6 30.6%	+38.5 +9.8%	893.3 48.2%	1,797.7 30.0%
販売管理費	362.5 28.3%	357.2 25.4%	△5.2 △1.5%	779.2 45.8%	1,557.7 23.3%
営業利益	29.5 2.3%	73.3 5.2%	+43.8 +148.4%	114.1 64.2%	240.0 4.0%
経常利益 (※2)	73.3 5.7%	89.0 6.3%	+15.6 +21.3%	94.6 94.1%	206.5 3.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	52.7 4.1%	40.9 2.9%	△11.7 △22.3%	54.2 75.5%	112.0 1.9%
IFRSに準拠した場合の 当期純利益(概算額)	58.1	46.1	△12.0 △20.7%	64.7 71.3%	133.0

四半期別業績推移				
2022年度				2023年度
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
1,278.9	1,324.4	1,459.6	1,254.3	1,405.9
886.8	927.9	1,028.7	884.8	975.3
392.0 30.7%	396.5 29.9%	430.8 29.5%	369.4 29.5%	430.6 30.6%
362.5 28.3%	362.3 27.4%	362.7 24.9%	328.0 26.2%	357.2 25.4%
29.5 2.3%	34.1 2.6%	68.0 4.7%	41.4 3.3%	73.3 5.2%
73.3 5.7%	42.6 3.2%	21.6 1.5%	70.3 5.6%	89.0 +6.3%
52.7 4.1%	9.7 0.7%	7.0 0.5%	24.1 1.9%	40.9 +2.9%

(※1) 売上総利益への
未実現利益の影響額

2022年度1Q + 4.7億円
2023年度1Q △18.4億円

(※2) 為替損益

2022年度1Q +50.7億円
2023年度1Q +28.0億円

- 売上高 国内医薬はネキシウムAGの販売好調と不採算再算定による注射剤の薬価上昇により増加。国際医療機器のB2B、ファーマパッケージングの欧米では販売数量が伸長し、増加。海外における売上高が円安の影響で対前年比増加。
- 売上総利益 原材料費とエネルギー費の増加により、売上総利益率は対前年微減も、売上総利益は38.5億円増加。
- 営業利益 海外のコンテナ費用の下落により運送費が減少。研究開発費、販促費を抑制し、営業利益は対前年で43.8億円増加。
- 経常利益 為替差益が22.6億円減少し、支払利息が3.6億円増加するも、経常利益は対前年で15.6億円増加。
- 当期純利益 持合株式の売却により17.0億円計上するも、子会社の持分譲渡損16.7億円発生に加え、繰延税金資産に対する評価性引当額等の税調整額14.0億円計上もあり、当期純利益は対前年で11.7億円減少。

販売費および一般管理費 主要科目

【販売費および一般管理費】

単位:億円	2022年度 1Q	2023年度 1Q		増減	増減率	2023年度 通期予想
		実績	構成比			
人件費	110.2	119.1	33.3%	+8.9	+8.1%	474.2
研究開発費 (※1)	54.2	39.8	11.1%	△14.4	△26.6%	190.5
運送費	53.7	34.4	9.6%	△19.3	△35.9%	186.4
償却費 (※2)	24.7	31.8	8.9%	+7.1	+28.7%	115.3
販促費 (※3)	28.0	26.0	7.3%	△2.0	△7.1%	102.0
旅費交通費	9.9	13.1	3.7%	+3.2	+32.3%	47.2
保管料	8.7	8.4	2.4%	△0.3	△3.4%	35.3
上記以外の科目	72.7	84.1	23.5%	+11.4	+15.7%	406.6
合計	362.5	357.2	100.0%	△5.3	△1.5%	1,557.7

(※1) 研究開発費・試験研究費・開発償却費

(※2) 減価償却費・のれん償却費

(※3) 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・交際接待費

- **人件費** 欧米において物価上昇に対応した賃金増、また従業員も増加したことにより、前年対比で8.9億円増加。
- **研究開発費** 対前年より14.4億円減少。主な要因は次スライドにて説明。
- **運送費** 海外におけるコンテナ運賃等が昨年末から相場下落し、前年対比で19.3億円減少。
- **償却費** ネキシウムAGのライセンス償却費などにより、前年対比で7.1億円増加。
- **旅費交通費** コロナ影響緩和に伴い対面での営業活動や出張を徐々に再開していることから前年対比で3.2億円増加。
- **上記以外の科目** 次スライドにて主な増加要因を補足説明。

販売費および一般管理費 補足

【販売費および一般管理費 補足】

	2022年度 1Q	2023年度 1Q		増減	増減率	2023年度 通期予想
		実績	構成比			
支払手数料	13.8	15.9	4.5%	+2.1	+15.3%	62.6
賃借料	10.1	12.4	3.5%	+2.3	+22.8%	60.6
租税公課	5.1	4.4	1.2%	△0.7	△13.5%	19.4
貸倒引当金繰入額	4.2	3.0	0.8%	△1.2	△27.0%	6.7
会議費	1.0	2.2	0.6%	+1.1	+120.0%	9.2
その他	38.0	45.6	12.8%	+7.6	+20.0%	248.1
合計	72.4	83.8	23.5%	+11.4	+15.7%	406.6

単位:億円

- **支払手数料** 販売委託に伴う手数料や透析装置の開発・保守の委託費が増加したことにより、前年対比で2.1億円増加。
- **賃借料** 国内医療機器、医薬品物流倉庫の移転・拡大により、前年対比で2.3億円増加。
- **租税公課** 前年は土地売却による消費税が増加していたため、今年は前年対比で0.7億円減少。
- **貸倒引当金繰入額** 前年は欧州販売会社の長期売掛に対する引当により膨らんでいたため、今年は前年対比で1.2億円減少。
- **会議費** 新型コロナ影響の緩和に伴い対面での会議が再開され始めており、前年対比で1.1億円増加。

販売費および一般管理費 研究開発費

【研究開発費(内訳)】

単位:億円	2022年度 1Q	2023年度 1Q	増減 (増減率)	通期予想 (進捗率)
医療	22.6	19.8	△2.8 △12.5%	88.1 22.5%
医薬	30.5	19.2	△11.3 △36.9%	99.5 19.3%
ファーマ パッケージング	1.1	0.8	△0.3 △29.6%	2.9 26.0%
合計	54.2	39.8	△14.4 △26.6%	190.5 20.9%

- **医療** 前年は冠動脈用薬剤溶出ステントに係る治験費用を計上していたため、今年の前年対比で2.8億円減少。
- **医薬** 前年は各種治験の実施が多かったことに加え、ニプロファーマ伊勢工場におけるシリンジプロジェクト費用が前年中に終了したことにより、今年の前年対比で11.3億円減少。
- **PP** 新たなガラス製品の開発費用については、前年対比で0.3億円減少。

為替影響を除いた損益比較

	2022年度 1Q	2023年度 1Q	為替の影響 (※)	影響を除いた 2023年度 1Q	増減率
単位：億円	[a]	[b]	[c]	[d=b-c]	[d÷a]
売上高	1,278.9	1,405.9	+56.7	1,349.2	+5.5%
売上原価	886.8	975.3	+33.0	942.3	
売上総利益	392.0	430.6	+23.7	406.9	+3.8%
(%)	30.7%	30.6%		30.2%	
販管費	362.5	357.2	+13.2	344.0	
営業利益	29.5	73.3	+10.5	62.8	+112.9%
(%)	2.3%	5.2%		4.7%	
営業外収益	60.0	38.5	△22.6	61.1	
営業外費用	16.2	22.9		22.9	
経常利益	73.3	89.0	△12.1	101.1	+37.9%
特別利益	19.4	23.9		23.9	
特別損失	2.7	19.3		19.3	
税引前利益	90.0	93.6	△12.1	105.7	+17.4%
法人税等	32.6	49.3	△6.4	55.7	
非支配株主に 帰属する純利益	4.6	3.3		3.3	
当期利益	52.7	40.9	△5.7	46.6	△11.5%

※ 昨年レートとの差額で外貨取引合計を円換算
円貨取引における為替の影響は考慮していません

期中平均レート	2022年 1~3月	2023年 1~3月	期末レート	2021年 12月	2022年 3月	2022年 6月	2022年 12月	2023年 3月	2023年 6月
1 USD	117.79	133.44	1 USD	115.02	122.39	136.68	132.70	133.53	144.99
1 EUR	131.57	143.96	1 EUR	130.51	136.70	142.67	141.47	145.72	157.60
1 中国元	18.56	19.43	1 中国元	18.06	19.26	20.38	19.01	19.42	19.94

事業セグメント別 売上高・営業利益

売上高

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2023年度 通期予想
医療関連事業	2023年度1Q	1,079.8	+103.2	+10.6%	4,602.0
	2022年度1Q	976.5			
医薬関連事業	2023年度1Q	174.1	△4.5	△2.5%	797.0
	2022年度1Q	178.7			
ファーマバクテ ジング事業	2023年度1Q	150.0	+27.9	+22.9%	589.1
	2022年度1Q	122.1			

営業利益

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2023年度 通期予想
医療関連事業	2023年度1Q	118.1	+33.5	+39.7%	433.1
	2022年度1Q	84.6			
医薬関連事業	2023年度1Q	31.8	+27.7	+679.8%	71.7
	2022年度1Q	4.0			
ファーマバクテ ジング事業	2023年度1Q	5.6	△4.4	△44.1%	23.2
	2022年度1Q	10.1			

●医療関連事業

国内外ともに売上高は伸長。営業利益は国内外の医療機器ともに対前年ほぼ横ばいだが、国内医薬のネキシウムAG販売好調と注射剤不採算定品目の薬価上昇により増加。

●医薬関連事業

売上高は減少したが、原材料費とエネルギー費高騰に伴う価格転嫁により営業利益が大幅に増加。

●ファーマバクテジング事業

売上高は増加し、原材料費高騰に伴う価格転嫁も実施したが、生産設備の投資に伴う償却費の増加より、営業減益。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2023年度 通期予想
国内事業	2023年度1Q	563.3	+45.7	+8.8%	2,423.7
	2022年度1Q	517.6			
医療機器	2023年度1Q	280.2	△9.5	△3.3%	1,314.2
	2022年度1Q	289.7			
医薬品	2023年度1Q	283.1	+55.2	+24.2%	1,109.5
	2022年度1Q	227.9			
ダイライザ 国内売上高	2023年度1Q	54.9	△0.5	△0.9%	230.4
	2022年度1Q	55.4			

●医療機器

ダイライザは販売減少のため、前年対比で0.5億円微減。

透析機器は、設置案件の減少により、前年対比で2.4億円減少。

輸液関連製品はシェアアップと価格改定により、前年対比で2.0億円増加。

カテーテル類は、国内独占市場であった薬剤溶出バルーンに対して、他社参入による影響を受け、前年対比で9.7億円減少。

外科用製品は、新規移植登録患者の増加や長期在宅補助人工心臓治療への適応拡大により、HeartMate 3の販売とそれに伴う保守契約が増加、人工肺関連製品は装置レンタル数が増加し、全体で前年対比3.9億円増加。

●国内医薬

経口剤の既存品は、販売数量は増加したが、薬価減少の影響により販売減少。

12月上旬品のネキシウムAGや新規品の販売好調により、全体では前年対比で36.0億円増加。

注射剤は抗生物質製剤や輸液製剤において、不採算再算定品目の薬価が上がったことに加え、販売数量も増加したことにより、前年対比で16.6億円増加。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2023年度 通期予想
国際事業	2023年度1Q	506.4	+60.8	+13.6%	2,114.3
	2022年度1Q	445.6			
B2B(他社ブランド)	2023年度1Q	78.9	+19.1	+31.9%	291.9
	2022年度1Q	59.8			
ニプロブランド	2023年度1Q	427.3	+41.5	+10.8%	1,822.4
	2022年度1Q	385.8			
アメリカ	2023年度1Q	192.4	+18.6	+10.7%	797.6
	2022年度1Q	173.8			
ヨーロッパ	2023年度1Q	97.7	+11.2	+12.9%	396.5
	2022年度1Q	86.5			
アジア	2023年度1Q	77.1	+10.2	+15.2%	357.5
	2022年度1Q	66.9			
中国	2023年度1Q	60.0	+1.6	+2.7%	270.7
	2022年度1Q	58.4			
ダイアライザ	2023年度1Q	157.5	+17.3	+12.3%	685.3
	2022年度1Q	140.2			

● **B2B** 欧州では採血関連製品とインスリン針が好調により、B2B全体では前年対比で19.1億円増加。

● **ニプロブランド** ダイアライザの数量は、中国は春節の影響により軟調に推移するも、その他地域では堅調に推移し、国際事業全体で前年対比で18.8億円増加。

米州ではカナダでのワクチン用シリンジの特需終了、コロナ影響緩和により手袋が販売減少するも、円安影響に加え、中南米での透析センターの拡大や血液回路、Safety AVF、透析液の販売堅調により、前年対比で18.6億円増加。

欧州では円安影響に加え、血液回路とシリンジの販売増加により、前年対比で11.2億円増加。

アジアでは円安影響に加え、シユアフューザーの販売堅調、IVカメラの入札案件獲得により、前年対比で10.2億円増加。

中国では中国当局による公立医院に対する国産装置優遇購買政策によって、透析機器の販売が減少するも、円安影響により、前年対比で1.6億円増加。



セグメント業績 - ② 医薬関連事業

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2023年度 通期予想
医薬関連事業	2023年度1Q	174.1	△4.5	△2.5%	797.0
	2022年度1Q	178.7			
< 受託売上高内訳 >					
ジェネリック品	2023年度1Q	94.5	△8.1	△7.9%	402.6
	2022年度1Q	102.6			
先発品・ 長期収載品	2023年度1Q	57.5	+4.3	+8.1%	305.6
	2022年度1Q	53.2			
OTC・原薬・ 試作等	2023年度1Q	7.2	△2.3	△24.2%	33.0
	2022年度1Q	9.5			
JMIファーマ	2023年度1Q	14.8	+1.6	+12.1%	55.7
	2022年度1Q	13.2			

● ジェネリック品

経口剤は顧客の品目整理に伴う受注減により、前年対比で0.7億円減少。

注射剤は顧客の品目整理に伴う受注減の他、品質強化に伴う出荷遅延により、前年対比で7.8億円減少。

● 先発品・長期収載品

経口剤は顧客の在庫調整に伴う受注減により、前年対比で3.2億円減少。

注射剤は受注増と原材料費やエネルギー費の高騰に伴う価格転嫁により、前年対比で9.4億円増加。

外用剤は顧客の品目整理により、前年対比で1.9億円減少。

● OTC・原薬・試作等

試作費用の一時金収入の減少により、前年対比で2.3億円減少。

● JMIファーマ

医師へのプロモーション強化、慢性疾患製剤への注力により、現地通貨ベースでは、前年対比で21.0%増加したが、為替変動の影響により、日本円ベースでは前年対比で12.1%増加に留まり、前年対比で1.6億円増加。

セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2023年度 通期予想
ファーマパッケージング事業	2023年度1Q	150.0	+27.9	+22.9%	589.1
	2022年度1Q	122.1			
＜ 地域別売上高内訳 ＞					
日本	2023年度1Q	32.3	+3.3	+11.4%	124.2
	2022年度1Q	29.0			
海外	2023年度1Q	117.7	+24.7	+26.6%	465.0
	2022年度1Q	93.0			
ヨーロッパ	2023年度1Q	60.0	+11.5	+23.7%	251.5
	2022年度1Q	48.5			
アメリカ	2023年度1Q	36.4	+10.7	+41.6%	136.2
	2022年度1Q	25.7			
中国	2023年度1Q	18.3	+4.5	+32.6%	57.5
	2022年度1Q	13.8			
インド	2023年度1Q	2.9	△1.9	△39.6%	19.7
	2022年度1Q	4.8			

● **日本** プラスチック容器はコンタクト関連製品の出荷増によって、前年対比で0.5億円増加。
輸液関連製品の出荷増によって前年対比で1.4億円増加。

● **海外** 欧州では販売価格への原価高のコスト転嫁により、前年対比で生地管が3.5億円、バイアルは3.9億円増加。
アンプルは競合他社の販売製品見直しの影響により、前年対比で4.6億円増加。

米国では生地管が販売価格への原価高のコスト転嫁により、前年対比で4.3億円増加。
バイアルは受注堅調であり、前年対比で4.9億円増加。

中国では子会社の持分譲渡に伴う連結除外により、23年1～5月分が計上され、前年対比で4.5億円増加。

インドではワクチン向け製品の需要減少により、前年対比で生地管が2.1億円、バイアルは1.1億円減少。



セグメント別・製品群別の売上高

セグメント 製品	医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパケ ージング事業	その他 事業	合計	
	単位：億円					
医療機器	2023年度1Q	768.2	0.0	10.0	0.0	778.3
	2022年度1Q	725.1	0.0	(※3) 8.2	0.0	733.3
医薬品	2023年度1Q	311.1	174.1	2.0	0.0	487.3
	2022年度1Q	(※1) 251.3	(※2) 178.7	0.8	0.0	430.9
ファーマ パッケージング	2023年度1Q	0.3	0.0	137.7	0.0	138.1
	2022年度1Q	0.0	0.0	112.2	0.0	112.2
その他	2023年度1Q	0.0	0.0	0.2	1.8	2.1
	2022年度1Q	0.0	0.0	0.8	1.5	2.4
合計	2023年度1Q	1,079.8	174.1	150.0	1.8	1,405.9
	2022年度1Q	976.5	178.7	122.1	1.5	1,278.9

(※1) 自社ジェネリック医薬品

(※2) 受託製造医薬品

(※3) 注射針類、輸液関連製品、検査製品

セグメント別・地域別の売上高

セグメント		医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパッケ ジング事業	その他 事業	合計
地域	単位：億円					
日本	2023年度1Q	551.4	158.1	32.4	1.8	744.0
	2022年度1Q	503.0	164.9	29.2	1.5	698.7
海外計	2023年度1Q	528.3	15.9	117.5	0.0	661.9
	2022年度1Q	473.4	13.7	92.9	0.0	580.1
アメリカ	2023年度1Q	218.2	0.0	33.8	0.0	252.0
	2022年度1Q	195.0	0.0	24.6	0.0	219.7
ヨーロッパ	2023年度1Q	125.1	0.4	62.2	0.0	187.8
	2022年度1Q	111.3	0.1	48.2	0.0	159.7
中国	2023年度1Q	76.9	0.0	18.3	0.0	95.4
	2022年度1Q	74.6	0.0	13.1	0.0	87.8
その他アジア	2023年度1Q	108.0	15.3	3.2	0.0	126.6
	2022年度1Q	92.4	13.5	6.8	0.0	112.8
合計	2023年度1Q	1,079.8	174.1	150.0	1.8	1,405.9
	2022年度1Q	976.5	178.7	122.1	1.5	1,278.9

● **地域別** 2022年度の地域別売上高比率は国内54.6%、海外45.4%であり、いずれの地域も販売は堅調。

● **セグメント別** 医療関連事業について国内医療機器はカテーテル類、透析機器の販売が減少。一方で医薬品はネキシウムAGの販売好調と注射剤不採算再算定品目の薬価上昇により販売増加。国際医療機器は円安の影響により全体的に増加。特にB2Bにおける販売が好調。

医薬関連事業は、海外はJMIファーマの販売が堅調に推移するも、日本ではGE品にて顧客の品目整理や在庫調整による受注減少により、前年対比で販売減少。

ファーマパッケージング事業は、円安の影響と販売価格へのコスト転嫁により、欧州にて生地管、アンプル、バイアル、米国にて生地管、バイアルの販売が好調。

製品分類表

医療機器区分	
ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
透析機器	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
その他透析関連	血液回路、AVFニードル（翼付留置針） 他
注射針類	PSVニードル（翼付留置針）、セーフタッチニードル 他
バスキューラ関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
輸液関連製品	輸液セット、IVカヌラ 他
検査製品	ネオチューブ、採血針 他
糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
SD関連製品	補助人工心臓、人工肺、整形外科製品
その他	医療器械、血液関連製品、培養商品、手袋 他
医薬品区分	
経口剤	経口剤
注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW、粉末透析剤、透析液 他
外用剤・貼付剤	外用剤、貼付剤
その他・体外診断薬 等	診断薬、医薬品、血糖測定器 他
ファーマパッケージング区分	
生地管関連	医薬用生地管、非医療用生地管、硝子原料
アンプル硝子	アンプル（シングルチップ、ダブルチップ）
バイアル硝子	バイアル（ブローバック、スクリュー、滅菌済等）
シリンジ硝子	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
ゴム栓・栓体類	ゴム栓、栓体、栓・キャップ類
プラスチック容器	プラスチック品
魔法瓶	魔法瓶用硝子
その他	硝子容器その他、特殊硝子容器、カートリッジ硝子その他など

製商品別売上高（1）

事業分類	単位：億円	全社				海外				日本			
		2022年度1Q	2023年度1Q	増減額	増減率	2022年度1Q	2023年度1Q	増減額	増減率	2022年度1Q	2023年度1Q	増減額	増減率
【医療機器】	ダイアライザ	195.7	212.5	+16.7	+8.6%	140.2	157.5	+17.3	+12.3%	55.5	54.9	△0.5	△1.0%
	透析機器	51.5	48.2	△3.2	△6.4%	33.2	32.2	△0.9	△2.8%	18.3	15.9	△2.3	△12.9%
	その他透析関連	100.2	127.3	+27.1	+27.1%	79.8	106.8	+26.9	+33.8%	20.3	20.5	+0.1	+0.8%
	透析関連製品計	347.5	388.1	+40.5	+11.7%	253.3	296.6	+43.3	+17.1%	94.2	91.4	△2.7	△2.9%
	注射針類	118.5	113.9	△4.5	△3.9%	81.2	76.7	△4.5	△5.6%	37.2	37.2	0.0	△0.0%
	バスキュラー関連製品	87.5	77.8	△9.6	△11.0%	16.0	17.1	+1.0	+6.3%	71.4	60.7	△10.6	△14.9%
	輸液関連製品	41.4	48.0	+6.5	+15.9%	14.2	18.9	+4.6	+32.3%	27.2	29.1	+1.9	+7.2%
	検査製品	26.2	33.6	+7.4	+28.3%	17.6	24.5	+6.9	+39.4%	8.5	9.0	+0.4	+5.6%
	糖尿病関連製品	19.7	24.9	+5.2	+26.4%	17.0	20.9	+3.9	+23.0%	2.6	3.9	+1.2	+48.4%
	SD関連製品	15.7	21.6	+5.9	+37.4%	2.6	4.5	+1.9	+74.2%	13.1	17.0	+3.9	+30.0%
	その他	75.5	68.3	△7.2	△9.6%	47.6	40.2	△7.3	△15.4%	27.9	28.0	0.0	+0.3%
部門計	732.5	776.6	+44.1	+6.0%	449.9	499.8	+49.8	+11.1%	282.5	276.8	△5.6	△2.0%	
【医薬品(自社)】	経口剤	96.4	132.5	+36.1	+37.5%	0.0	0.1	+0.1	+245.8%	96.3	132.3	+36.0	+37.4%
	注射剤・輸液	115.4	136.4	+21.0	+18.2%	22.6	27.1	+4.4	+19.7%	92.7	109.3	+16.5	+17.9%
	外用剤・貼付剤	16.3	17.9	+1.5	+9.6%	-	-	-	-	16.3	17.9	+1.5	+9.6%
	その他・体外診断薬等	23.1	24.2	+1.0	+4.6%	0.7	0.8	0.0	+13.2%	22.4	23.3	+0.9	+4.3%
	部門計	251.3	311.1	+59.8	+23.8%	23.4	28.1	+4.6	+19.9%	227.8	283.0	+55.1	+24.2%
【医薬品(受託)】	経口剤	78.2	74.4	△3.8	△4.9%	0.1	0.1	0.0	△1.9%	78.1	74.2	△3.8	△4.9%
	注射剤・輸液	69.3	72.0	+2.6	+3.8%	0.3	0.8	+0.5	+134.5%	68.9	71.1	+2.1	+3.1%
	外用剤・貼付剤	12.6	11.0	△1.6	△12.7%	-	-	-	-	12.6	11.0	△1.6	△12.7%
	その他・体外診断薬等	6.0	3.8	△2.2	△36.7%	0.0	0.1	+0.1	+568.9%	5.9	3.6	△2.3	△38.7%
	部門計	166.3	161.3	△5.0	△3.0%	0.5	1.1	+0.6	+114.7%	165.8	160.1	△5.6	△3.4%
【医薬品(JMIP)】	経口剤	13.0	14.7	+1.6	+12.6%	13.0	14.7	+1.6	+12.6%	-	-	-	-
	注射剤・輸液	0.1	0.1	0.0	△19.5%	0.1	0.1	0.0	△19.5%	-	-	-	-
	部門計	13.2	14.8	+1.6	+12.2%	13.2	14.8	+1.6	+12.2%	-	-	-	-

製商品別売上高（2）

事業分類		全社				海外				日本			
		2022年度1Q	2023年度1Q	増減額	増減率	2022年度1Q	2023年度1Q	増減額	増減率	2022年度1Q	2023年度1Q	増減額	増減率
単位：億円													
[ファーマ]	生地管関連	27.8	33.0	+5.2	+18.7%	22.5	27.5	+5.0	+22.5%	5.2	5.4	+0.1	+2.7%
[パッケージング]	アンプル硝子	15.7	21.8	+6.0	+38.6%	15.7	21.7	+6.0	+38.5%	0.0	0.0	0.0	+53.1%
	バイアル硝子	40.4	51.7	+11.3	+27.9%	35.6	47.4	+11.7	+32.9%	4.7	4.3	△0.4	△9.5%
	シリンジ硝子	13.7	14.8	+1.0	+7.7%	13.6	14.7	+1.0	+8.0%	0.0	0.0	0.0	△68.8%
	ゴム栓・栓体類	4.5	4.4	0.0	△1.2%	1.3	1.2	△0.1	△8.8%	3.1	3.2	0.0	+2.2%
	プラスチック容器	4.5	5.1	+0.5	+11.9%	0.0	-	0.0	△100.0%	4.5	5.1	+0.5	+12.0%
	魔法瓶	0.9	1.3	+0.4	+48.5%	-	-	-	-	0.9	1.3	+0.4	+48.5%
	その他	4.4	5.7	+1.2	+28.0%	3.7	5.0	+1.2	+34.4%	0.7	0.6	0.0	△5.1%
	部門計	112.2	138.1	+25.8	+23.0%	92.7	117.8	+25.1	+27.1%	19.5	20.2	+0.6	+3.6%
[再生医療]	再生医療等製品	0.8	1.6	+0.8	+108.3%	-	-	-	-	0.8	1.6	+0.8	+108.3%
[その他]	生産機械販売・不動産賃貸	2.4	2.1	△0.2	△10.6%	0.2	0.0	△0.1	△61.5%	2.1	2.0	△0.1	△5.2%
	連結合計	1,278.9	1,405.9	+127.0	+9.9%	580.1	661.9	+81.7	+14.1%	698.7	744.0	+45.2	+6.5%

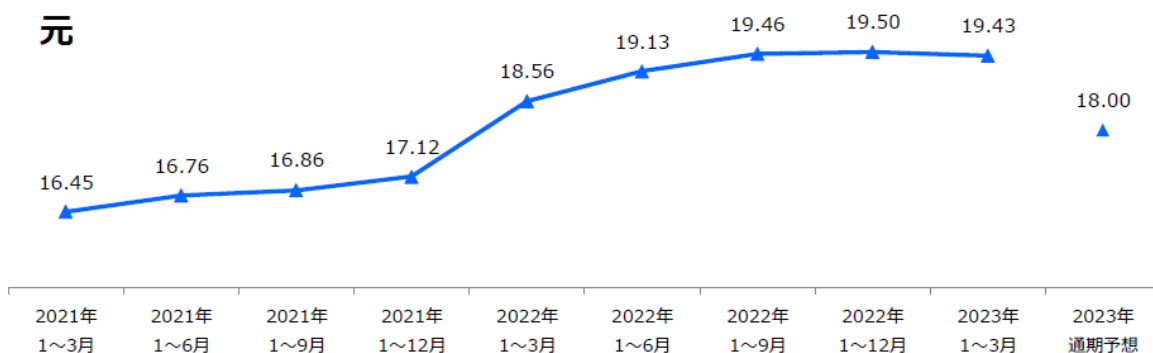
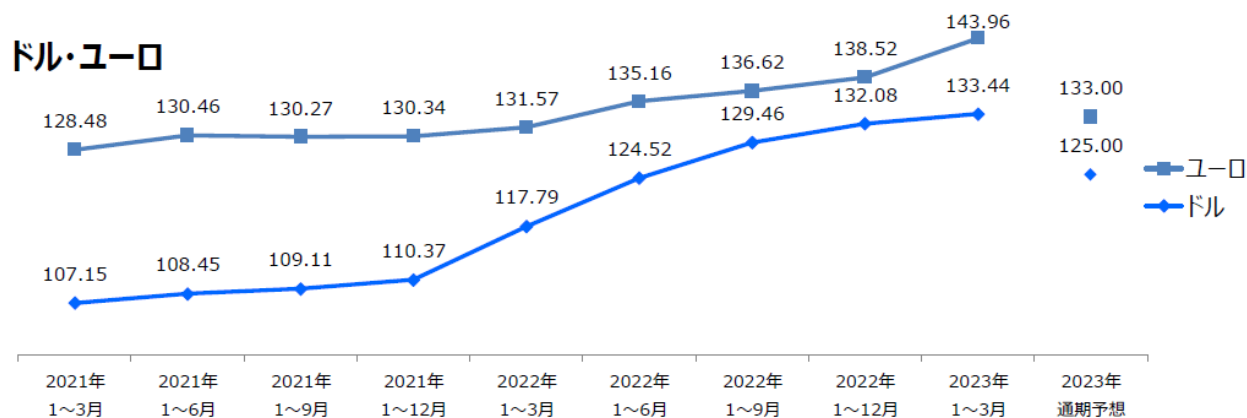
為替感応度

【1円変動による年間影響額】

(億円)

	ドル	ユーロ	元
売上高	8.8	5.1	18.4
営業利益	0.4	2.1	10.1

【期中平均レート】



設備投資額・減価償却費

	設備投資額				減価償却費			
	2022年度 1Q	2023年度 1Q	増減額 (増減率)	通期予想 (進捗率)	2022年度 1Q	2023年度 1Q	増減額 (増減率)	通期予想 (進捗率)
単位：億円								
医療関連	41.4	64.4	+23.0 +55.6%	197.1 32.7%	49.6	60.9	+11.3 +22.8%	252.6 24.1%
医薬関連	62.1	44.8	△17.3 △27.9%	277.0 16.2%	31.0	33.9	+2.9 +9.4%	154.9 21.9%
ファーマパッケージング	25.8	38.1	+12.3 +47.7%	96.3 39.6%	11.8	14.9	+3.1 +26.3%	60.4 24.7%
その他	12.2	15.9	+3.7 +30.3%	50.9 31.2%	11.4	12.5	+1.1 +9.6%	55.7 22.4%
合計	141.7	163.4	+21.7 +15.3%	621.3 26.3%	103.9	122.5	+18.6 +17.9%	523.6 23.4%

(※) 今年度より、設備投資額の表示形式を検収ベースから計上ベースに変更しております。

● 設備投資額

医療は引き続きダイアライザの大館第7工場建築費用の計上があり、対前年で大きく増加。

医薬はニプロファーマで近江工場新設費用や伊勢工場シリンジラインの増設費用を計上するも、対前年では減少。今後、引き続き近江工場関連の費用に加え、埼玉、大阪のQCセンター新設費用を計上予定であり、設備投資額は対前年で増加予想。

ファーマパッケージングはドイツの滅菌済みガラスシリンジ D2F®の洗浄ラインの設備投資に加え、フランスの各種ガラス製品の製造設備の新設費用を計上したことにより対前年で大きく増加。

● 減価償却費

各セグメント共に大きな工期遅延は無く設備が稼働開始しており、減価償却費は予想通りで着地。



本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。

